

「科学基礎論研究」和文誌用クラスファイルの使い方

科学 太郎*

How to Use the L^AT_EX 2_ε Class File (japs.cls) for the Journal of the Japan Association for Philosophy of Science

Tarou KAGAKU*

Abstract

The Japan Association for Philosophy of Science provides a L^AT_EX 2_ε class file, named **japs.cls** for the Journal of the Japan Association for Philosophy of Science. This document provides instructions on how to use the class file.

1. まえがき

本ドキュメントは、「科学基礎論研究」和文誌の「論文」、「討論」、「書評」を、**japs.cls** を利用して執筆する際の注意事項を簡単にまとめたものです。

テンプレートに従った記述方法を、2 章（「論文」および「討論」）と 3 章（「書評」）で説明します。5 章では、プリンタへの出力と PDF ファイルの作成について説明します。

2. 「論文」および「討論」のテンプレート

テンプレートをもとにコマンドの説明をします。原稿執筆に際しては、本クラスファイルとともに配布されるテンプレート（**template.tex**）を使用できます。

```
\documentclass{japs}
%\usepackage[dvipdfmx]{graphicx}
%\usepackage[dvips]{graphicx}
\usepackage[T1]{fontenc}
\usepackage{lmodern}
\usepackage{textcomp}
%\usepackage{amsmath}
%\usepackage{amssymb}
```

```
\begin{document}
\Year{2016}
\Vol{43}
\No{2}
\title[柱用題名]{和文題名}
%\subtitle{和文副題名}
\etitle{英文題名}
%\esubtitle{英文副題名}
\authorlist{%
\authorentry{科学 太郎}
{Tarou Kagaku}{APS}
}
%\breakauthorline{3}
%\headauthors{科学他}
\affiliate[APS]{科学基礎論学会}
{E-mail: kisoron@sasappa.co.jp}
\ack{××に感謝いたします。}
\begin{abstract}
...
\end{abstract}
\received{2010}{2}{28}
\revised{2010}{3}{1}
\accepted{2016}{11}{9}
\maketitle
```

* 科学基礎論学会

E-mail: kisoron@sasappa.co.jp

××に感謝いたします。

`\section{}`

%% 番号つきでない文献

`\begin{references}`

`\item`

`\end{references}`

%% 番号つきの文献

`\begin{thebibliography}{99}`

`\bibitem{}`

`\end{thebibliography}`

`\end{document}`

- `\Year`, `\Vol`, `\No` は、発行年、巻数、号数をアラビア数字で指定します。これらは柱に出力されます。

投稿論文がいつ掲載されるかわからない場合は、引数を空にするかコマンドをコメントアウトしてください。

- `\title` には和文題名を記述します。題名が長くなる場合、任意の場所で改行したいときは、`\\` で改行します。

和文題名は奇数ページの柱にも出力されますが、見出しが長すぎて柱の文字がはみ出す場合（ワーニングが出力されます）は、

`\title[柱用の短い題名]{和文題名}`

という形で、柱用に短い和文題名を記述することができます。

必要に応じて和文副題名を指定することもできます。

`\subtitle{和文副題名}`

- `\etitle` には英文題名を記述します。

必要に応じて英文副題名を指定することもできます。

`\esubtitle{英文副題名}`

- 著者名は以下のように記述します。

`\authorlist{%`

`\authorentropy{科学 太郎}`

`{Tarou Kagaku}{APS}`

`}`

著者のリストを `\authorentropy` に記述し、リスト全体を `\authorlist` の引き数にします。

- 第 1 引き数の和文著者名の姓と名の間に必ず半角スペースを挿入します（スペースを挿入し忘れた場合にはワーニングが出力されます）。姓は偶数

頁の柱にも出力されます。

- 第 2 引き数の英文著者名は、頭文字のみ大文字で記述します。ファミリーネームは自動的に全て大文字になります。

- 第 3 引き数には、所属を示すラベルを記述します。機関、学部、部門などを表す簡潔なものにします。このラベルは、後述する `\affiliate` の第 1 引き数に対応します。

ラベルの前後にスペースを挟まないでください。

`{APS}` と `{APS1}` は別の所属と判断されます。

- 著者が多数であり、英文著者名を任意の場所で改行したい場合は、`\breakauthorline` コマンドを使用します。

`\breakauthorline{3}`

と記述すれば 3 人目の著者名の後ろで改行します。カンマで区切ることによって複数指定することもできます。

- `\authorentropy` の第 1 引き数の姓は、偶数頁の柱にも出力されます。著者の数が多い場合に、偶数頁の柱が版面をはみ出すこともあります。そのような場合は、以下のように柱の著者名を直接指定することもできます。

`\headauthors{科学他}`

- 所属は、次のように記述します。

`\affiliate[ラベル]{所属}{E-mail}`

所属の情報は、先頭頁左段下の脚注部分に出力されます。`\authorentropy` で付けたラベルの出現順に記述してください。

- 第 1 引き数は、`\authorentropy` で指定したラベルに対応します。ここでもラベルの前後に余分なスペースを挿入しないでください。

- 第 2 引き数には所属を記述します。

- 第 3 引き数には E-mail アドレスを記述します。

- `\affiliate` のラベルが、`\authorentropy` で記述したラベルと対応しないときは、ワーニングメッセージが端末に出力されます。

- 投稿原稿に関する謝辞などを記述することができます。

`\ack{××に感謝いたします。}`

- 要旨は `abstract` 環境に、100 単語程度の欧文で記述してください。

- `\received` は、投稿の日付を記述します。3 つの引き数に前から順に、年（西暦）、月、日のアラビア数字を記述します。

`\received{2010}{2}{28}`

再投稿の場合は、`\received` とともに `\revised` に同じように記述してください。

`\received{2010}{2}{28}`

`\revised{2010}{3}{1}`

掲載決定の場合は、`\accepted` に同じように記述してください。

`\received{2010}{2}{28}`

`\revised{2010}{3}{1}`

`\accepted{2016}{11}{9}`

- 文献および文献参照については特に決まりはないようです。番号つきでない文献は `references` 環境に、番号付きの文献は `thebibliography` 環境に記述してください。

3. 「書評」のテンプレート

`\documentclass[bookreview]{japs}`

`\usepackage[T1]{fontenc}`

`\usepackage{lmodern}`

`\usepackage{textcomp}`

`%\setcounter{page}{1}`

`\begin{document}`

`\Year{2016}`

`\Vol{43}`

`\No{2}`

`\maketitle`

`\end{document}`

- `\documentclass` のオプションとして `bookreview` を指定します。
- `\Year`, `\Vol`, `\No` のみを指定します。

4. 図について

図は基本的に PDF 形式のファイルを読み込むようにして下さい。最近は PDF を利用することが推奨されています。

- `graphicx` パッケージのオプションに `dvipdfmx` を指定します。
描画のために `tikz` パッケージを利用する場合は、`\documentstclass` のオプションに `dvipdfmx` を指定することを薦めます。

- 適当なアプリケーションで図を作成し保存形式を pdf にします。

- PDF ファイルはファイルの内部に `BoundingBox` の情報を持っていませんので

`\includegraphics`

`[bb=0 0 横ポイント数 縦ポイント数,`
`width=幅]{file.pdf}`

などと明示的に `BoundingBox` の値を記述するか、ターミナル上で以下のように `extractbb` を実行し `$ extractbb file.pdf`

コンパイル時に、生成された `file.xbb` というファイルから、`BoundingBox` の情報を得る方法がありましたが、TeX Live 2015 以降、MacTeX-2015 以降、W32TeX では、コンパイル時に自動的に `extractbb` を実行して `BoundingBox` の情報を取得できるようになりました。

`xbb` ファイルを生成しておいたほうがコンパイルの速度は少し速くなります。この場合には、図を修正したときに、その都度 `extractbb` を実行する必要があります。

- 詳しくは以下の URL を参照されることを勧めます。

TeX Wiki: <https://texwiki.texjp.org/>

PDF ではなく PostScript (EPS) の図を読み込みたいときには、

`\usepackage[dvips]{graphicx}`

と指定して下さい。

5. プリンタへの出力と PDF の作成方法

- コマンドラインで PDF に書き出すには二通りの方法があります。

– `dvipdfmx` を使って PDF にします。

`dvipdfmx -o file.pdf file.dvi`

– `dvips` を使用して、ps に書き出します。prt には、お使いのプリンタ名を記述します。

`dvips -Pprt -t b5 -O 0in,0in`

`-o file.ps file.dvi`

オプションの `-O 0in,0in` は省略できます。

次に Acrobat Distiller で PDF に変換します。

- `dvips` を使用して B5 用紙に出力する場合のパラメータは、以下のような設定になります。prt には、お使いのプリンタ名を記述します。

`dvips -Pprt -t b5 -O 0in,0in file.dvi`

- A4 用紙に出力する場合のパラメータは、だいたい

以下のような設定になります（以下では段幅の関係で折り返しています）.

```
dvips -Pprt -t a4  
-O 14mm,20mm file.dvi
```

参考文献

- D.E. クヌース, 改訂新版 T_EX ブック, アスキー出版局, 1992.
- 江口庄英, Ghostscript Another Manual, ソフトバンク, 1997.
- マイケル グーセンス, フランク ミッテルバッハ, アレキサンダー サマリン, L^AT_EX コンパニオン, アスキー出版局, 1998.
- レスリー ランポート, 文書処理システム L^AT_EX 2_ε, ピアソンエデュケーション, 1999.
- マイケル グーセンス, セバスチャン ラッツ, フランク ミッテルバッハ, L^AT_EX グラフィックスコンパニオン, アスキー出版局, 2000.
- 奥村晴彦・黒木裕介, [改訂第 6 版] L^AT_EX 2_ε 美文書作成入門, 技術評論社, 2013.
- 吉永徹美, L^AT_EX 2_ε マクロ & クラスプログラミング実践解説, 技術評論社, 2003.
- ページ・エンタープライゼス (株), L^AT_EX 2_ε マクロ & クラスプログラミング基礎解説, 技術評論社, 2002.

(2010 年 2 月 28 日投稿、2010 年 3 月 1 日再投稿、2016 年 11 月 9 日掲載決定)